

60秒60回咀嚼で咀嚼能力をチェック! キシリトール咀嚼チェックガム



咀嚼能力を短時間で確認

きちんと噛めることは、快適な生活をするためにとても大切です。『キシリトール咀嚼チェックガム』は、噛むことで色が変わります。子どもから大人まで、おいしく簡単に咀嚼能力を確認できます。

短時間でチェック可能!

詳しくは
こちら→



60秒で60回咀嚼→色が変わる



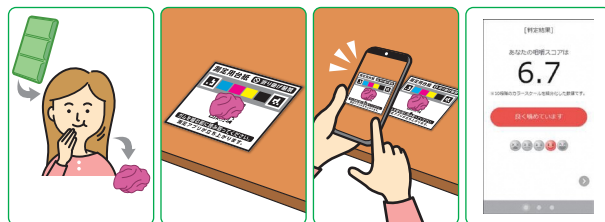
①緑色が

②噛むと

③赤くなる!

***義歯につきにくい品質です**

WEBアプリで100段階の判定



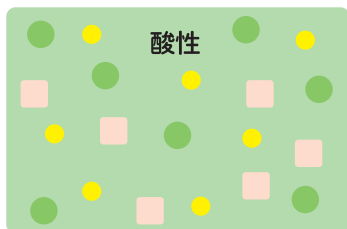
またはパッケージの5段階カラーチャートで判定



ガムの色に一番近いものをカラーチャートから選んでください。

メカニズム

噛む前のガム



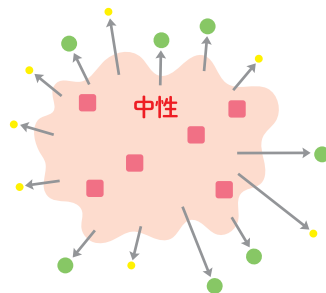
酸性

● 緑色の色素 酸性→中性 赤色の色素 ● 酸味料(クエン酸)

ガムの中の酸味料の影響で、赤色は抑えられ、緑色のみが発色しています。



噛んだ後のガム



中性

だ液によって、酸味料が溶け出し、ガムは中性となります。同時に緑色色素もガムから出ます。赤色色素はガム中に留まって、中性で赤色を発色します。

キシリトール咀嚼チェックガムのお求めはオーラルケアまで フリーダイヤル **0120-500-418**

お口の恋人

LOTTE

咀嚼チェックガム研究活用事例

*国内誌 22本 国際誌 70本の論文で掲載されました。(1998～2022年) *東京医科歯科大学高齢者歯科学分野調べ

〈咀嚼チェックガムを使用した研究でわかったこと一例〉

咀嚼能力と「フレイル」

目的	咀嚼能力とフレイルの進行の関係を調べること(縦断研究)
対象	板橋区地域在住高齢者を2回測定 ベースライン:791名 2年後:491名(平均年齢72.7歳)
主な解析	ロジスティック回帰分析 目的変数:フレイルの進行 説明変数:咀嚼能力 (咀嚼チェックガム、最大咬合力、主観的咀嚼能力) 年齢、性別、残存歯数、握力、歩行速度、認知機能、うつ、 骨格筋量、常用薬の数
結果	咀嚼チェックガム(OR:1.49. 95%CI 1.14-1.96)、 主観的咀嚼能力(OR:0.59. 95%CI 0.36-0.99)は有意
結論	ベースライン時の咀嚼能力(咀嚼チェックガム、主観咀嚼能力)は 2年後のフレイル進行と関連がある。

Horibe Y et al. A 2-year longitudinal study of the relationship between masticatory function and progression to frailty or pre-frailty among community-dwelling Japanese aged 65 and older. J Oral Rehabil. 2018

咀嚼能力と「サルコペニア」

目的	咀嚼能力とサルコペニアの関係を調べること(横断研究)
対象	板橋区地域在住高齢者761名(平均年齢73.0歳)
主な解析	ロジスティック回帰分析 目的変数:サルコペニア 説明変数:年齢、BMI、残存歯数、最大咬合力、 咀嚼能力(咀嚼チェックガム)
結果	年齢、BMI、最大咬合力、咀嚼能力(5段階カラスケール2以下)が有意 咀嚼能力が低いとサルコペニア2.18倍(95%CI 1.21-3.93) p=0.01
結論	咀嚼能力とサルコペニアには関連あり。

Murakami M et al. Relationship between chewing ability and sarcopenia in Japanese community-dwelling older adults. Geriatr Gerontol Int. 2015.

咀嚼能力と「認知機能」

目的	認知機能と咀嚼能力の関連を調べること(横断研究)
対象	韓国南部の高齢者施設(14ヶ所)在住の101名
主な解析	重回帰分析 目的変数:MMSE 説明変数:咀嚼チェックガム(色彩色差計)、咬合力、 年齢、喫煙、飲酒、居住形態、主観的咀嚼能力、 摂取可能食品、残存歯数
結果	咀嚼チェックガム、臼歯部咬合力、居住形態(同居)が 有意な因子
結論	咀嚼能力と認知機能には関連あり。

Shin HE et al. Association between mastication-related factors and the prevalence of dementia in Korean elderly women visiting senior centres. Gerodontology. 2020.

咀嚼能力と「低栄養」

目的	地域在住高齢者の咀嚼能力と栄養状態の関連を調べること
対象	東京都市部地域在住高齢者509名(平均年齢73.1歳)
主な解析 と結果	t検定/カイニ乗検定 咀嚼不良群(5段階カラスケール1-3)で以下項目が有意に低い ○炭水化物以外の栄養摂取 ○シリアル、お菓子、砂糖、調味料、スパイス以外の食品摂取 ○栄養良(血清アルブミン4.0g/dL以上)の割合 ロジスティック回帰 目的変数:栄養 良/不良 説明変数:咀嚼 良/不良、その他多数 →咀嚼能力は有意な因子
結論	日本の地域在住高齢者において、 咀嚼能力と栄養摂取、食品摂取、低栄養には関連がある。

Motokawa K et al. Relationship between Chewing Ability and Nutritional Status in Japanese Older Adults: A Cross-Sectional Study. Int J Environ Res Public Health. 2021.



東京医科歯科大学高齢者歯科学分野
水口 俊介教授

誰でも・簡単に咀嚼能力を評価

これまで咀嚼能力を評価するためにたくさんの方法が開発されてきました。その中でキシリトール咀嚼チェックガムには、誰でも簡単に使用できるという優れた点があります。また、成人だけではなく未就学児や総入れ歯の方にも使用できることが確認されており、生涯にわたる咀嚼能力管理に利用することができます。今回、新たに開発されたアプリケーションを利用することで、誰でも正確に、咀嚼能力を数値化できるようになりました。さらにこれを用いることで、歯科医院において治療前後の効果を確認したり、個人において日常的に咀嚼能力を評価し自身の健康管理に役立てたりすることもできます。



お口の恋人

LOTTE